



平成27年度から市社協の地域福祉推進計画と行政計画である名古屋市の地域福祉計画を一体的に策定した『なごやか地域福祉2015』がスタートしました。

平成27年度は、この計画を実りあるものにしていくための推進体制を整え、各会議やフォーラムの中で、市民のみなさまをはじめ、関係団体、行政の方々等から活発なご意見をいただくこととともに、本計画に対する協力や理解を深めることができました。

下記に平成27年度の主な取り組みをご紹介します。

地域福祉に関する懇談会

【開催日】平成27年11月6日（金）

区政協力委員議長協議会や民生委員児童委員連盟等地域で活動する団体、大学、企業、協同組合などの方々にご参加いただきました。地域のつながりや孤立を生まない地域をどう作っていくか、意見交換を行うとともに、新聞販売店地域安全協議会や名古屋学院大学社会連携センターの取り組み事例が報告されました。



<地域福祉に関する懇談会の様子>

進行管理・評価シート

方針					
具体的な取り組み					
事業名			市		
事業概要					
目的・効果・成果を記入する					
【報告事項】	1. なごやか地域福祉2015で該当する方針の実現に向けて、この事業がどのように貢献しているか（地域にどのような効果を生んでいるか）				
	2. この事業がさらに発展するために必要な検討（地域での課題）				
【目的達成】から評価（平成27～31年度）の取り組み内容（※28年度実績（参考））	計画年度	27年度	28年度	29年度	30年度
①取り組むことに関する関係件数					
②コミュニティワーカーの相談対応件数					
③実施学級数					
必要となる連携・協働					

<進行管理・評価シート>

ワーキンググループ連絡会

【開催日】平成27年9月9日（水）、平成28年3月22日（火）

市社協、健康福祉局、子ども青少年局をはじめ、市民経済局、住宅都市局などの関係各課の職員が集まり、本計画の具体的な進行管理の方法や評価の視点などについての検討を重ねてきました。

今後は、左記の「進行管理・評価シート」を活用して、各取り組みの進み具合の確認や課題の整理などに取り組んでいきます。



<分科会の様子>

つながり支えあおう地域福祉のすゝめ

【開催日】平成28年1月19日（火）

同フォーラムの中で「つながる広がるなごやの地域福祉～地域力up！私たちがともに手を携えるためのコツ～」と題し、「連携・協働」をテーマとした分科会を開催し、130名を超える多くの方にご参加いただきました。

当日は、福祉教育を通じた地域づくりの実践や市営住宅での学生による孤立防止の取り組みについての活動報告が行われ、今後の連携の在り方についての意見交換を行いました。

★公式HPでは、計画の推進状況を順次お知らせしています。

なごやか地域福祉2015

検索

それぞれの地域での“連携・協働”の取り組みを紹介します！



食が結ぶ子どもの居場所づくり



<子ども食堂の様子>

北医療生活協同組合・社会福祉法人名北福祉会・名古屋北法律事務所友の会「暮らしと法律を結ぶホウネット」の3団体が連携して、「わいわい子ども食堂」（以下「食堂」という）を北医療生協すまいるハートビル2階ワイワイルームで毎月第1水曜日に開催しています。

この取り組みは、家でひとりで食事をしている子ども達に必要なバランスが取れた食事を提供し、サポーターと共に会話をしながら、健康指導や学習支援など、地域の大人も子ども

も共に元気になれる居場所づくりを目指して、平成26年11月4日にスタート！「このような取り組みを広げ、継続的に活動をしていくためには、共感し合える仲間をいかに増やしていくかということが大事。そのためには、できるだけたくさんの団体に関わってもらい、持てる力を出し合えるための連携の仕組みづくりが大切です。」と語るのは運営委員長の杉崎伊津子さん。また、「食堂」では、3つの団体が連携・協働していくために、毎月、3団体が集まる運営会議を開催したり、毎月の「食堂」終了時には、その都度振り返り会議を行って、誰でも自由に意見が言える場を作るとともに、ひとつの団体の負担が大きくなりすぎないように、それぞれの団体の特性や強みに応じて役割分担をしながら進めていることが連携・協働のポイントではないでしょうか」と話されます。

今後は、学校や行政等の協力を得ながら、子どもに限らず「だれでも食堂」として地域の交流の場所にしていきたいとのこと。ぜひ一度お立ち寄りください。



自然を生かした遊び場で子どもの居場所作りを

守山区にある小幡緑地公園（本園）では、小幡緑地冒険遊び場の会が中心となって、毎週月・木曜日に「冒険遊び場」が開催されています。

「ここは自分が子どもの頃には遊具がたくさんある楽しい遊び場だった。今は遊具の大半が無くなり寂しくなった公園を、前みたいに子どもが思いきり遊べる場所にしたかった」と語るのは会のリーダーである中村真由子さん。地域の課題を見過ごさず、どうにか変えたいという中村さんの強い思いが活動のはじまりです。

「プレイパーク」という活動を知り、「守山区の自然を生かした遊び場・子どもの居場所を作りたい！」と手探り状態で平成25年に活動をスタート。今では地域の子どもたちが多く集う楽しい遊び場となりました。木にロープをぶら下げて作ったブランコやハンモック、滑車付きのターザンロープと冒険さながらの遊び場を毎回作ってくれるのは、子どもたちが慕う地域のボランティアさんです。中村さん曰く、「今ではママ友や近所の高齢者の方もボランティアとして遊びや見守りを手伝ってくれたり年上の子は年下の子の面倒も見てくれたりして地域や世代間の交流の場にもなっています。」昨年末12月には公園の近くの民家を借り、「つなしょ」という子どもの居場所を新たにオープンさせこちらも地域住民や子どもが集う楽しい地域交流の場となっています。

ぜひ一度お立ち寄りください。



<小幡緑地公園冒険遊び場>



<つなしょ駄菓子屋コーナー>

【編集・発行】名古屋市健康福祉局高齢福祉部地域ケア推進課 ・ 名古屋市社会福祉協議会総務部

Tel 052-972-2548 / Fax 052-955-3367